

## 「修行が進む、人生も進む」

宝彩有菜

子供のころは、「青年よ、大志を抱け」とか教育されて、「サッカー選手になるのだ」とか、「宇宙飛行士になりたい」だとか、小学校の卒業文集の中には、そのような前向きな元気な言葉が溢れています。とても良いことです。そして、さらに成長してくると、その他にも、しごく妥当と思われる人生の目標が掲げられてきます。それらも良いことです。そして、それなりに勉強や努力をして目標に近づくように日々精進します。人間の成長として当然のことです。そのようにして人生は進んでいきます。順調に進んでいる間は問題ありません。さらに、どんどん進めて行くことです。

しかし、人生は、なかなか思うように順調に進まなくなります。今まで以上にいくら努力しても、工夫しても、どうしても、こうしても、理想どうりには行かなくなります。夢が「欲」で巨大化することも原因ですが、なかなか夢のように行かなくなります。

しかし、自分の夢は、我慢強く粘ってみれば、自分にはできるかもしれない。やってみなければわからない。そして、叶わないのは自分の努力が足りないのだと、さらに頑張ったりもします。そのようにして、何年も何十年も、延々と続けていることもあります。

では、なぜ、マインドはそのような「夢」でも手放さないのか。いくつかの理由がありますが、「今まで努力したことが水の泡になる」というマインド特有の「ケチ」な感覚もあるでしょう。

そして、純粋な夢よりは、夢にまわりついている金銭欲、名誉欲などの欲の実現に向けて自分の人生を続けている場合もたくさんあります。そして何となく人生を終わる。でも、それでは、「リアルな人生」「真実の人生」を歩んだ人生とは決して言えません。「夢」を夢見た人生でしかありません。それで良いという文学者や、哲学者は古今東西沢山いますし、そのような言葉も残っていますが、それらは、すべて慰めかもしれません。

修行者たるもの、そんな慰めは欲しくありませんね。本当の人生は、もっともっと、ダイナミックで迫力があって、生き生きと楽しいものです。手応えのあるものです。現実感が溢れたものです。それを手に入れるために修行しています。

自分に才能が有ろうが無かろうが、そんなこととは関係なく「素晴らしい人生を私は生きた」「この世に生まれて良かった」「面白い人生だった」「楽しい人生だった」と一人の人間として、胸を張って堂々と言いたいわけですが、肩書や地位や名誉やさまざまな外部のこととは関係なく、一人の人間としてそう言いたいわけですが。修行すれば誰でもそうなれますし、そうなることが修行の目的です。

そうなるためには、自分にとっての「要らない夢」「不経済な夢」はさっさと捨てることです。「夢を追いかけていること」を人生の言い訳に使わないことです。一時的には、辛いかもしれませんが、自分の「欲」が付着している夢はさっさと捨てる。どんな夢が不要か見分け方は簡単です。自分にとっての不要な夢ですから、自分でできます。あるいは、もっと言えば、自分にしか、見分けはできません。見分け方はこうします。その「夢」を、もし一切捨てたらどんな気持ちになるのか、捨てるシミュレーションをしてみればいいのです。

心から捨てた気分になってみればいいのです。そして夢に不着している欲を観察して、それも捨てることです。しっかりそうできると、つまり、夢を手放す決断を仮にしてみると、一瞬、さみしくて、心に冷たい隙間風が吹くかもしれません。でも、しばし、その隙間風に吹かれていてください。すると、心の中のゴ

ミヤ埃と一緒に吹き飛ばされるかもしれません。そして、心の中に爽やかな涼風が通りぬけるでしょう。青空がぱーんと広がるでしょう。そして、もし、捨てた悲しさの何十倍もの嬉しさが訪れるようなら、それは「要らない夢」だったということです。

そして、「なんだ、私はこれに長年こだわっていたけど、この夢がなくても、全然平気なのだ。生きて行ける」と自信を持って納得されるかもしれません。さらに、「ああ、これって単に重荷だったんじゃないか！

自分の欲でしがみついていただけだ」とまではっきり思えるかもしれません。そのような「手放した感覚」「解放された感覚」「嬉しい感覚」が起きると、その夢の呪縛から逃れて転進できます。人生が軽やかに進み始めます。現実のリアルな人生、手ごたえのある人生を生きることができます。

また一方、一旦、夢を仮に捨ててみて、それに付随していた欲も綺麗に捨てた後から、やはり同じことをすることもできます。それだけを純粹にすることは単に楽しいのだと改めて感じられる、初心に戻ることもあります。それは、現実です。認められなくても、稼げなくても、何もなくても、それをするのが心から楽しいのであれば、それは、リアルです。附着した欲を振り捨てて当初の純粹な輝く夢に戻ったわけです。そうであればそれは捨てなければならない夢ではありません。

また、不思議ですが、このような作業をすると、夢と欲が分離されますから、すぐに新しい自分の本当の道が、広がっているのがはっきり分かります。「ほう、ちゃんと準備されて待っていてくれたんだなあ」という感じで分かります。

人生は、思っているよりずっとダイナミックで、リアルで、ワクワクできること、驚嘆できること、感動、感謝できることで満ち溢れています。実際に眼の前で、手で触れられます。現実です。夢ではありません。それを心から体験してください。

それを心から楽しみましょう。それが、本当に生きているということです。

宝彩有菜

